

## 豊かな体験活動推進事業実践

香川県内海町立苗羽小学校

### 1 「豊かな体験」とは

- 子どもたちが体全体で対象に働きかけ、かかわっていくことを通して、心が動かされ、人間的成長や学びがあるもの

### 2 豊かな体験活動でねらっているもの

- 様々な体験活動における人やものとの「触れ合い・かわり合い」を通して、人を思いやる気持ちや自分の仕事への責任感、お世話になった方への感謝など豊かな心を身に付けるとともに、人とかかわることの楽しさや協力することの大切さを学ぶ。
- 学校内や地域の人々とかかわる体験を通して、表現力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、子ども一人一人の個性が発揮される場とする。

### 3 体験活動の内容と教育課程上の位置づけ

以下は、第6学年の実践を紹介している。(ひしおの里学習以外は、多学年での取組である。)

活動名	活動内容	実施時間等	教育課程上の位置づけ
苗羽郷土クラブ	地域の方を講師「ふるさと先生」として呼び出して、地域の伝統文化などを継承する特別なクラブ活動	2時間×5回=10時間 及び発表会	特別活動(クラブ活動)
オリーブの栽培活動	内海町全体で取り組んでいる一人一本のオリーブの栽培活動	1時間×7回=7時間 及び学級単位で適宜	特別活動(学校行事) 及び学級活動
千歳ふれあいタイム	地域の老人クラブ「千歳会」と共同で取り組んでいる学校内外の環境美化活動	1時間×5回=5時間	特別活動(学校行事)
ひしおの里学習	総合的な学習の時間における高齢者福祉施設や幼稚園との交流活動	20時間(実際に施設や幼稚園で交流を行った時間のみ)	総合的な学習の時間

## 4 体験活動の概要

### (1) 地域とともに創る体験活動

#### 苗羽郷土クラブ

「苗羽郷土クラブ」は、通常のクラブとは別に、地域の方をふるさと先生として講師に迎えて、4年以上の子どもに文化・芸術を伝えていただく本校独自のクラブ活動である。

子どもの活動に対する意欲化を図ろうと多様なクラブを設定したため、講師の人選や依頼は大変であったが、その甲斐があり、子どもは、俳句、絵手紙、尺八、琴、三味線、茶道、華道、郷土料理、クラフト、銭太鼓、グランドゴルフの中から自分の興味・関心、個性などに応じたクラブを自己選択することができた。

クラブでは、回数を重ねるごとに、地域の方が子どもの顔と名前を覚え、子どももふるさと先生の顔や名前を覚えていった。休憩時間には「あなたは、さんのとこの子どもかいな」「あんたのおばあちゃんと私と同級生やで」などと身近な話題に花が咲くこともあった。また、茶道クラブの子どもたちが、ふるさと先生の自宅でのお茶会、地域でのお茶会にも呼ばれ、楽しい一時を過ごすなど、クラブの時間のかかわりが学校外にも広がりがつつある。

#### 千歳ふれあいタイム

地域の老人クラブ「千歳会」と一緒に、校舎内外の環境美化活動に取り組んだ時間である。活動する中で、千歳会の方と本当の孫のような温かい会話が自然に生まれている。また、子どもは、千歳会の方々の真剣な姿、手際よい作業ぶりにいつも感心させている。

単純な作業に意欲的に取り組ませるためにはどうすればよいか，千歳会の方々とのお話し合いをもっと深めるにはどうすればよいかを，学校だけでなく，千歳会の方とともに，十分検討し，千歳会の方にも充実感や満足感をもっていただける活動に発展させる必要がある。

## (2) 子どもが創る豊かな体験

### 総合的な学習の時間における交流(ボランティア)活動

6年生は，校区内にある高齢者福祉施設「マリアの園」を訪問し，清掃や交流を行った。1学期には，施設の高齢者の方々に喜んでもらえることは何かを話し合い，自分たちで育てた花を持って行ったり，みぞ掃除やごみ拾いなど施設内外の清掃活動をしたりした。訪問前にはいろいろな不安もあったようだが，実際に訪問をすることで，不安が解消し，もっと触れ合いたいという気持ちが生まれたようであった。

2学期には，自分の周りのおじいちゃんやおばあちゃんの紹介をして高齢者の素敵なところを見付けたり，自分たちで作った装具をつけて高齢者の疑似体験をしたりした。そうして，人生の先輩でもある高齢者の方々のすばらしさや知恵を改めて感じるとともに，「歩くことさえ大変な人もいるだろうから，体を大きく動かす活動はやめよう」「新聞などの小さな字は読みにくいだろうから，交流の時には何か読んであげよう」など，高齢者の気持ちをより深く考えることができた。

訪問については，1学期の交流をもとに，高齢者の多い施設の皆さんにもっと喜んでもらうには，自分たちがどんなことをすればいいかを真剣に考え，昔から続けている人気テレビ番組(時代劇)の劇をすることにした。前日，子どもたちが大道具や小道具を必死に作る姿や一生懸命練習する姿が印象的だった。そして，当日は，施設を利用するデイサービスの方も交えての交流となった。必死で練習した劇はもちろん，日頃の音楽の学習で身に付けた合奏や合唱も披露した。体をうまく動かさない高齢者の方とは，似顔絵をかいたり，本を読んだり，かるたとりをしたりして遊ぶなど，高齢者に対する配慮が見られた。

直接体験だけでなく，適切な間接体験や疑似体験，体験後の振り返りの場作り等で，体験活動は一層価値のあるものとなっていくことを実感した。

### オリーブの栽培活動

内海町では，郷土が自慢できるものの一つとして，オリーブの栽培を行っている。町内の小・中学校すべてで1人1本のオリーブを育てている。オリーブの栽培は，単純な作業である上に，長期にわたる活動であるため，子どもたちが自主的に取り組むことの難しい活動である。そこで，子どもの意欲を持続させるために，次のような工夫をした。

一本一本のオリーブが「自分のオリーブだ」という意識をもてるように，オリーブを植樹した場所に自分たちで名前をつけたり，自分のオリーブに名札をつけた。また，オリーブを植樹している場所は，児童会が全校生から名前を募集し「オリーブの森・苗羽」と命名され，児童会が製作した大きな看板が設置されている。そして，一本一本のオリーブには，オリーブの枝を切って作った名札がかけられ，だれが世話をしているオリーブかがわかるようになっている。この「自分の」という意識が，子どもたちが意欲をもって活動する推進力となっている。

2学期には，学校近くのオリーブ並木のオリーブの実をちぎり，採った実を塩漬けにして，給食の時間においしくいただいた。また，いくつかある苗羽郷土クラブの一つである「郷土料理クラブ」の時間や「家庭科」の学習でオリーブを使ったおやつや料理作りに挑戦するなど，オリーブを他の学習活動にもつなげていった。体験活動を体験だけに終わらせず，他の学習活動と関連させることで，子どもたちの活動に対する意欲化が図れた。

また，オリーブの栽培活動も，子どもだけでなく，期末懇談の際に保護者と一緒に水やりをしたり，千歳会の方々と一緒に水やりや草抜きをしたりするなどして，単調な世話や作業に対して意欲的に取り組めるよう工夫した。

## 5 活動の評価方法

ひしおの里学習については、学校で作成した評価規準(下表)に基づいて、学級担任が満足できる判断の基準を考え、身に付けさせたい力を明確にして、評価を行っている。

平成14年度 ひしおの里学習			
目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的、創造的に問題を解決しようとする資質や能力を育てる。</li> <li>・ 自己のよりよい生き方について、考えることができるようにする。</li> </ul>			
生活科との関連	評価規準		
低学年	中学年	高学年	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な人々や社会、自然に関わろうとしている。</li> <li>・ 自分たちの遊びや生活が楽しくなるように工夫しようとする。</li> <li>・ 体験や活動に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・ 楽しく学習や生活をしようとする。</li> <li>・ 自分なりに考えたり、工夫したりできる。</li> <li>・ 友達と協力して進めようとしている。</li> <li>・ 生活上必要な技能を身に付けることができる。</li> <li>・ 自分の思いや気付いたことを自分の表したい表現方法で表現できる。</li> <li>・ 自分と身近な人、社会や自然との関わりに気づくことができる。</li> <li>・ 自分自身のよさに気づくことができる。</li> </ul>	<b>1 自ら課題を見付け、解決していく力</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 疑問に思ったり興味を持ったりしたことから、課題を見付けることができる。</li> <li>・ 調べる方法を考え、計画を立て見直しをもって、活動を進めることができる。</li> <li>・ 調べたり体験したりしたことを整理して表現しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分で課題を見付けたり、つくったりできる。</li> <li>・ 自分で計画を立て、工夫して解決することができる。</li> <li>・ 調べや体験を基に考え方を広げたり深めたりできる。</li> <li>・ 自分の考えや思いを効果的に表現できる方法を考え、的確に表現しようとする。</li> </ul>	
	<b>2 問題解決に向けての主体的、創造的な態度</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動を進める中で、新たな課題を見付けようとする。</li> <li>・ 友達と協力したり、自分で課題を解決したりするための方法を考え、取り組もうとする。</li> <li>・ 必要な情報を選択し、整理しながら学習を進めることができる。</li> <li>・ 調べて分かったこと、考えたことを図や表などを使って相手に分かりやすく表現することができる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習や体験の中から、さらに深まりのある課題を見付けようとする。</li> <li>・ 友達と協力したり、自分で課題を解決したりするための方法を考え、追究しようとする。</li> <li>・ 得られた情報を分析し、自分に必要なものを選んで組み合わせたりできる。</li> <li>・ 追究して学んだことを、いろいろな表現方法で進んで相手に分かりやすく表現することができる。</li> </ul>
	<b>3 自己の生き方</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことや考えたことを基に自分にできることは何かを考え、行動することができる。</li> <li>・ 自他のよさを見付け、自分の生活に取り入れることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学んだことを自分の生活の中にかかすことができる。</li> <li>・ 自他のよさを見付け、自分の生き方に取り入れることができる。</li> </ul>	

それぞれの体験の際には、振り返りカードを用いて、3段階(よい・ふつう・もう少し)評価で活動を簡単に振り返るとともに、その時の気持ちや考え、反省などを記録・累積している。

4の体験活動の概要で述べた施設訪問の際には、振り返りカードをもとに、前の活動を振り返らせ、高齢者にも楽しめるような活動を考えるよう助言をした。

下の感想を書いたA児については、1回目の訪問の感想と見比べると、高齢者への思いやりの気持ちや行動が芽生えたことから、自己の生き方を振り返るとい面で、この児童の心の成長がうかがえる。

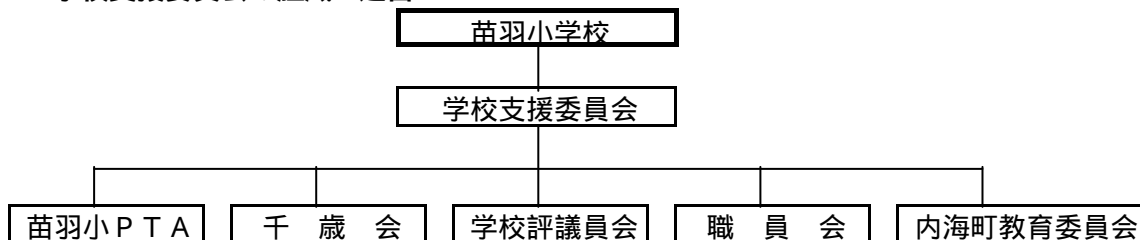
### 【A児の1回目の訪問後の感想】

今日は、マリアの園を訪問しました。お年寄りは思っていたより不自由で、リハビリの時も、ボールをわたしてあげたら、かえせない人もいて、大変なんだなあと思いました。

### 【A児の2回目の訪問後の感想】

今日は、マリアの園に交流に行きました。体の不自由なせつの方にも喜んでもらえるように歌やげき、遊びをしたので、すごく喜んでくれました。がんばってよかったです。

## 6 学校支援委員会の組織・運営



すべての関係者が集まることは難しいので、個々の組織との連絡調整が中心となる。

苗羽郷土クラブについては、内海町教育委員会が募集した学校支援ボランティアや学校独自の人材バンクの中から、講師を依頼し、事前に打ち合わせの会(学校支援委員会)をもった。

この会での話し合いを経て、子どもたちが活動しただけで終わらないように、年度末には発表会を設定し、子どもたちの活動に対する意識・意欲が継続するようにした。クラブ終了後にも、講師の先生方に集まっていただき、改善すべき点について話し合う場を設けた。講師の先生方と子どもとの温かい触れ合いや活動の様子などが話された。

校区内の老人クラブ「千歳会」には、ボランティア部がある。そのリーダーの方々との連絡を密にして連携・協力を図り、「千歳ふれあいタイム」だけでなく、様々な活動にボランティア・ティーチャーとして参加していただいている。

## 7 推進地域としての取組

### (1) 豊かな体験活動推進地域協議会の実施

協議会では、各校の体験活動についての情報交換の場として各校での成果を他校に広めるとともに、問題点を出し合い、解決のために協議を行っている。町内の学校が共通して取り組んでいるオリーブの栽培については、栽培技術面での課題が多かったので、オリーブ栽培の専門家を呼んで指導助言をいただくなど、貴重な研修の場として有効に機能している。

### (2) コーディネーターとしての町教委の役割

内海町教育委員会では、学校支援ボランティア活用事業を行っている。これは、保護者や地域の人材が、ボランティアとして教育活動及び環境支援整備に参加するという事業であり、本校で苗羽郷土クラブ等の体験活動を推進するに当たって、その事業を生かし、講師の依頼等の交渉をする際には、町教委が、学校とボランティアとのコーディネート役を果たした。

### (3) 内海町学校教育研究会における研修

教員研修の場である内海町学校教育研究会に「豊かな体験委員会」を設置し、幼・小・中の連携・協力を図っている。体験活動における幼・小・中の縦のつながりを検討し、体験活動に継続性が保てるようにしている。

## 8 活動の成果と今後の課題

### (1) 成果

- ・ 地域の人々との触れ合いを通して、「自分の住む地域には、すてきな人がたくさんいる」「自分の住む地域は、すてきなところである」という意識が生まれつつある。
- ・ 総合的な学習の時間に実施したボランティア活動等を通して、「人のために役立った」「交流してよかった」という自己存在感を味わうことができた。このような感情が、次の活動の意欲に結びついている。
- ・ 体験活動を通して、表現力やコミュニケーション能力、問題解決能力が少しずつ身に付いてきた。

### (2) 課題

- ・ 体験活動が受け身に終わらず、主体的なものとなっていくよう工夫しなければならない。
- ・ オリーブの栽培活動のように、すぐに成果が見られない活動については、目的意識を持たせることや活動意欲を持続させることが難しいので、活動意欲を持続させるために、活動を意図的・計画的に教育課程に位置付け、課題意識をつなげていくことが必要である。

## 9 今後の取組の方向

体験活動がより主体的なものとなるように、活動内容に子どもから出された創意工夫を積極的に取り入れ、教科学習や特別活動、総合的な学習の時間と体験活動をつなぐなどの工夫をすることが大切である。また、それぞれの体験活動が、ねらいを十分達成できているのか、時間的な面などで学校や児童などに過重負担となっていないかなどの点から見直し、学習活動に体験活動が根付くように、体験活動を改善していく必要がある。

また、今後も、これまでの体験活動を通して創り上げてきた体験活動推進のための人のネットワークをさらに充実させ、地域と一体となった取組を進めていきたい。